

名古屋市経済の活性化



先進技術社会実証支援事業

「 Hatch Technology NAGOYA 」

先進技術(AI・IoT等)の活用を普及・推進＝実証で魅せる

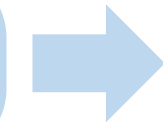
- ・先進技術の実証を通じて市民・職員に技術の有用性を体感
- ・先進技術の実装を促進し、新たな産業やビジネスチャンスを創出
 - ・先進技術を活用した企業が名古屋域に集積
- ・先進技術の活用により、公共サービスの質や効率が向上



Hatch Technology NAGOYA 2つの事業

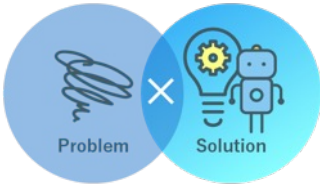
課題提示型 支援事業

名古屋市の
課題



負担金あり

先進技術を持つ企業



フィールド 活用型 支援事業

先進技術を持つ企業

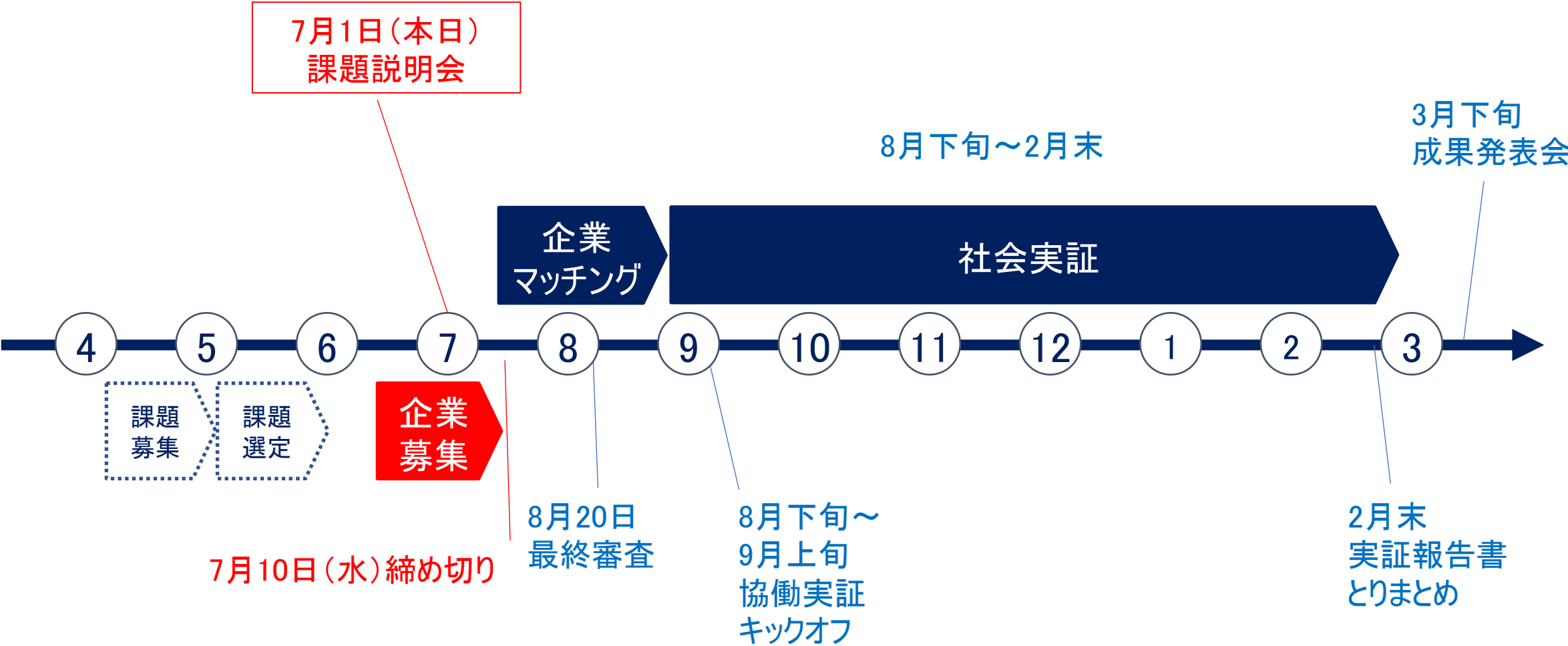


フィールド探しを支援

名古屋市・
民間施設など
フィールド



Hatch Technology NAGOYAの全体スケジュール



実証プロジェクトの件数と支援の上限額

16件の課題から、8課題の実証プロジェクトを創出。

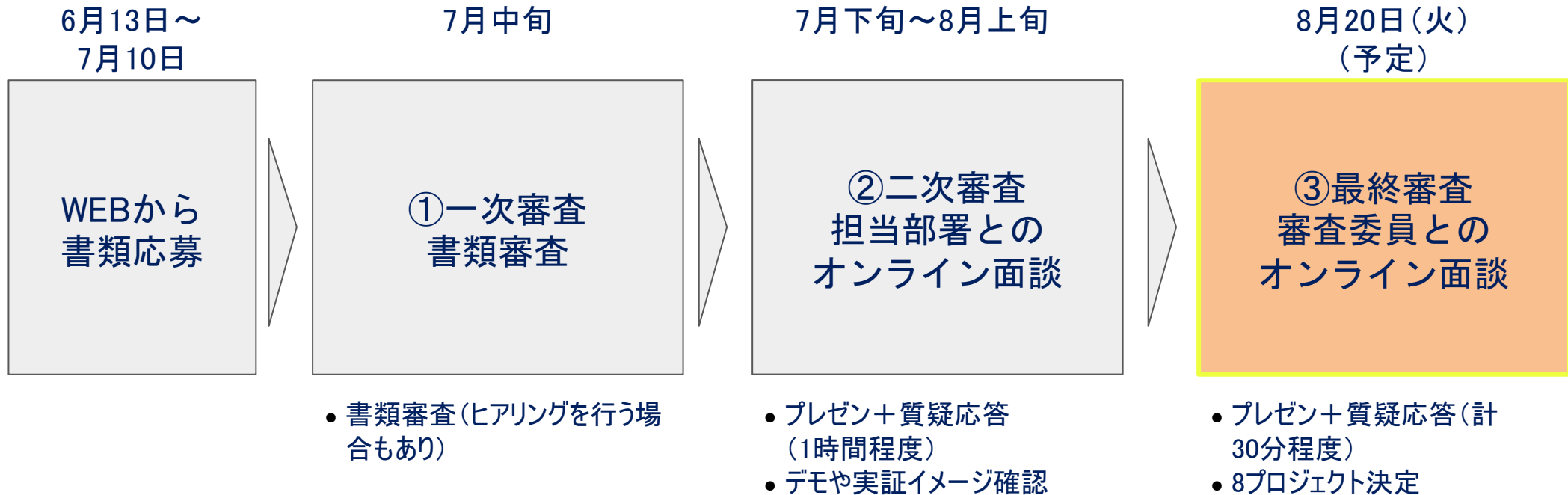
※社会課題については、特に地球環境への配慮に優れたものを「社会課題グリーン化」、特に社会にインパクトのあるデジタル・トランスフォーメーションに資する提案を「社会課題DX」として採択します。

区分	行政課題	社会課題
企業募集件数	8件	8件
実証プロジェクト件数	4件	4件
負担金(支援金) (税込み・最大)	150万円/件	300万円/件



選考プロセス

3段階で審査を実施します。
最終審査にて、8件の実証プロジェクトを決定します。



審査基準

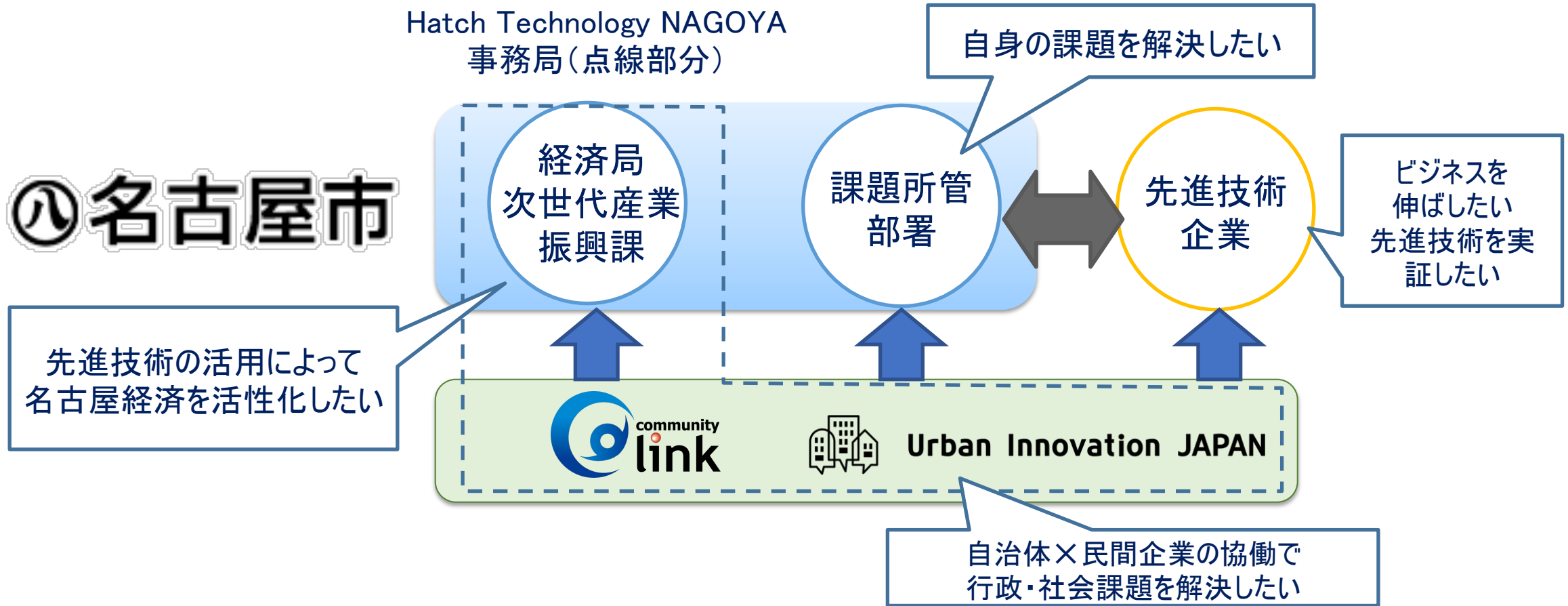
先進技術の社会実証を行い、名古屋でのモデルを作り、
全国へ展開できるサービスを目指します。

審査項目	内容	配点
新規性・創造性	提案する解決策に先進性(技術・サービス)があるか (他のサービスと差別化できる要素を持っているか、 行政関連分野で商用化されていないか)	25
	他社が真似できない独自技術を有しているか(知財など)	10
課題理解度 ・改善効果	テーマを適切に理解し、合理的な解決手法を提案しているか	10
	解決手法により課題に対して高い改善効果が期待できるか	10
社会実装の 実現性	実証で終わらず、実装に繋がる可能性のある取り組みになっているか (企業、市民、他都市等への展開が可能な技術か)	20
チーム構成 ・能力	チームメンバーがバランスよく構成されているか	5
	実証に合わせて先進技術をカスタマイズできる技術者を擁しているか	10
	職員と協働してより良いサービス開発を進められる体制が整っているか	5
地域連携	名古屋地域で活動しているか(本店、支店等があるか)	5
合計		100



体制

担当課と企業の協働プロジェクトを、事務局がご支援します。



協働の進め方(イメージ)

ブラッシュアップを繰り返しながら、課題解決に資するサービスを協働で開発・実証を行います。

協働期間(イメージ)



昨年の実証事例

課題

エスカレーターは立ち止まって利用するよう意識・行動変容を促したい。
(スポーツ市民局 消費生活課)

実証内容

LiDAR センサーと AI を活用したエスカレーター安全利用促進の実証

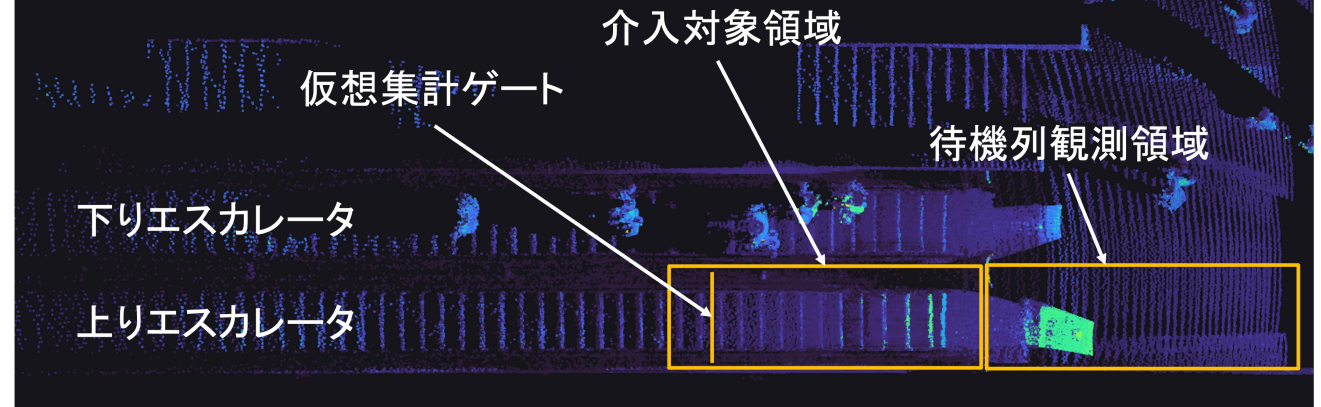


実績

人手での集計に迫る精度の AIの開発に成功
踏段上移動率を **約50%** 抑制

LiDAR センサにより得られた点群データを上から見下ろした図

※ LiDAR によって得られるデータは誤差数 cm の正確な「3Dデータ」なので、可視化する際の視点はおとから自由に変更可能



テレビ・新聞でも多数取り上げていただきました。

NHK東海 名古屋 AIが呼びかけ“エスカレーター立ち止まって”
<https://www3.nhk.or.jp/tokai-news/20240205/3000034069.html>



メ〜テレ
エスカレーターで歩く人をAIが検知、注意呼びかける 名古屋の地下鉄駅で実証実験 (24/02/05 17:22)
https://youtu.be/lux8ppy6Klc?si=if0_z5Sfyx2AXLcn



2024年2月5日テレビ愛知で放送
【エスカレーター歩行禁止】「条例違反です。立ち止まってご利用ください」立ち止まらずに歩くと音声で注意 (2024年2月5日)
<https://youtu.be/SsCG8EA2BYQ?si=p3CB1IczOV0tZSyu>



「条例違反です。エスカレーターは立ち止まって」AIが検知し警報音とアナウンス “エスカレーター歩かないで条例”施行の名古屋市で実証実験



エスカレーターでの事故をなくすため、名古屋市は去年10月からエスカレーターに立ち止まって乗ることを義務付ける条例を施行しました。罰則規定のないこの条例がどこまで定着するか、カギを握るのは「AI」です。名…

2024年2月5日CBCニュース
「条例違反です。エスカレーターは立ち止まって」AIが検知し警報音とアナウンス “エスカレーター歩かないで条例”施行の名古屋市で実証実験
<https://youtu.be/1GJ-FMrdeI8?si=vrYv5PPUmm5JBska>



事前に頂いた質問

Q. 大変興味深い活動だと思っています。
社内決裁を進めるにあたり、本事業の費用面の基本的考え方をお伺いしたい。

Q. 企業側で発生する費用はどこまで企業側の負担となりますか？

- ・100%企業側が負担(共同研究に近い)
- ・100%名古屋市が負担(委託)
- ・費用の内容・金額に応じて相談

A. 負担金という形で、名古屋市から行政課題 最大150万円、社会課題 最大300万円をお支払いします。

Q. 商社的立場でも課題解決は可能でしょうか？

A. 過去にも採択の実績はある。技術の先進性や、プロジェクト推進体制が十分であれば可能性は十分あります。

Q. どの程度の技術レベルから参加できますでしょうか

A. 大前提として、課題解決に資する技術であることを想定しており、技術の新しさだけをもとめたい訳では無いが、事業の特性上、すでに製品化・商用化されているものをただ利用するだけではなく、技術的なチャレンジを入れていただきたい。
AIによる自動化、高度化などがわかりやすい例ではある。仕組みの新しさより技術的な新しさが評価される。



事前に頂いた質問

Q.一次審査(書類選考)の提案資料・補足資料について、資料の様式に制限はありますか。(ページ数、資料サイズ、文字の大きさなど)

A. 特に様式の指定はない。自由に提案できるのが本事業の特徴です。なるべく企業側が応募しやすいようにしたいと思います。



当日頂いたご質問

Q.知的財産等の取扱についてはどのようになるのか

A.
お持ちの技術や開発したものについては、実証事業者に知的財産権が帰属するものとします。



よくある質問

Q. 実証支援金を超える費用がかかった場合は請求できますか？

A. 今年度の実証にかかる費用でお支払いできるのは、行政課題1件あたり150万円(税込み)上限
社会課題1件あたり300万円(税込み)上限となっています。超過する部分については、実証事業者側でのご負担をお願いします。

Q. 提案前にもう一度担当部署と話したいのですが。

A. 提案前に個別に担当部署と面談することはできません。今日の時間内にぜひご確認ください。
審査の中で担当課と面談の機会がございますので、その際に詳細なすり合わせが可能ですので、まずはご提案いただけますと幸いです。また、最終審査前に提案書の更新も可能です。



よくある質問

Q. 名古屋市からはどんな支援が受けられますか？

A. 支援金の支払以外に、実証に必要な市施設における調整、テストいただく市民への参加声掛け、市のイベント等におけるPR、大学・研究機関等における相談のあっせんが可能です。



ご応募時のポイント

- ・ 技術の先進性や独自性をアピールしてください。
- ・ 製品・サービスのイメージの伝わる画像や資料があると嬉しいです。
- ・ 御社の事業へのメリットもお伺いしたいです。
- ・ チーム情報には、できるだけ具体的なメンバーとお持ちの専門性をご記載ください。



お問い合わせ

- 担当部署への個別のご連絡はご遠慮ください。
- どうしても確認したい点がございましたら、下記お問い合わせフォームよりお問い合わせください。
 - お問い合わせフォーム
<https://www.hatch-tech-nagoya.jp/contact/>



フィールド活用型支援事業イベントのご紹介



先進技術を持ち、実証フィールドを探している事業者と
課題解決のためのフィールドを提供いただける事業者が
新たな実証プロジェクトの創出にチャレンジするミートアップ



Hatch
Meets **UP!**

2024 **7/8** 14:00-17:00
mon.

@ **NAGOYA INNOVATOR' S GARAGE**



本イベントは名古屋市 先進技術社会実証支援事業
「Hatch Technology NAGOYA」の一環で実施しています。

HATCH TECHNOLOGY NAGOYA
2024

